

ブリタニカ国際年鑑

カントリープロフィール 2019-2022

待望の
デジタル版
出来！

電子書籍版

ブリタニカ 国際年鑑

カントリープロフィール

2019-2022



**世界195の国と地域の出来事と現勢
基本統計・図表類を収録。**

政治体制、元首、面積、人口、人口動態、主要都市、民族、
宗教、経済、産業、貿易、教育、医療、運輸、通信、国防

世界の動向を一望！

グローバル時代に生きる力を身につける未来への指針

「面積・人口統計」「貿易」「教育・医療」など、今見たいデータをわかりやすいレイアウトで定位
置に掲載。電子書籍版の機能を生かして過去4年間のデータを参照・比較することができます。

世界195の国・地域の現勢を表す基本統計・図表類を解説とともに収録しました。 また、世界の主要9地域について、2019年～2022年の動向を各専門家が解説しています。

[主な掲載事項]

- ◆面積・人口統計
 - 面積、人口、人口密度、性別人口、主要都市人口、平均世帯規模、都市農村人口比 (円グラフ)
- ◆年齢別人口割合
 - 年齢別の人口割合を棒グラフを用いて解説
- ◆人口動態統計
 - 出生率、死亡率、年平均人口増加率、出生時平均余命、HIV感染率
- ◆民族
 - 在住している民族の割合を円グラフを用いて解説
- ◆宗教
 - 信仰されている宗教の割合を円グラフを用いて解説
- ◆国民経済
 - 一般政府予算、国内総生産 (GDP)、国民総所得 (GNI)、総債務残高、生産、観光、消費者物価指数、経済活動人口、耕地面積の割合
- ◆エネルギー
 - 電力、化石燃料
- ◆教育、医療
 - 識字率、教員数、生徒数、医師数、病床数、出生1,000あたり乳児死亡率、低栄養人口
- ◆貿易
 - 輸入額、輸出額、主要輸入先及び主要輸出先 (円グラフ)
- ◆運輸
 - 鉄道、道路 (距離、舗装率)、車両保有台数
- ◆通信
 - 携帯電話、固定電話、インターネット利用者、ブロードバンド契約者数
- ◆国防
 - 現役兵員、国防支出のGDP比

ウクライナ

【正式名称】ウクライナ。
【政治体制】単一院制共和政。一院制(議会議長450)。
【大統領】ボロディン・ゼレンスキー。
【首相】ドニシ・シュミハリ。
【言語】ウクライナ語。
【公用語】ウクライナ語。
【通貨】ウクライナ гривナ。
【通貨単位】フリブニャ。1フリブニャ=37.00フリブニャ(2022年末)。
【独立年月日(国家成立日)】1991年8月24日。
【憲法制定日】1996年6月28日。

2022年2月24日、ウクライナはロシア軍の侵襲を受けた。ロシアは2021年4月以降、ウクライナ国境付近に大規模な部隊を配置し、軍事力を強めていた。侵襲の3日前の2月21日には、ロシア系住民の多いウクライナ東部のドネツ州とルハーンク州をそれぞれ独立国家として承認した。ボロディン・ゼレンスキー大統領はただちに総動員令を発令、国に徴兵令を呼びかけた。また2月28日にはヨーロッパ連合(EU)への加盟を申請した。ウクライナは6月初旬に国土の20%にあたる12万5000km²がロシアに占領されていると発表したが、9月に入ると攻勢に転じ、13日までに東部と南部の8000km²に及ぶ領土をロシア軍から奪還した。ロシアは9月30日に先の2州を含む4州を併合する一方向の宣言、ウクライナも同日に北大西洋条約機構(NATO)に加盟申請するを表明した。11月上旬、アメリカ合衆国のワシントン・ワシントン州知事トニー・ブラスレットは、ウクライナ侵襲による死者数は両軍合わせて約20万人に上るとの推計を明らかにした。

面積・人口統計
【面積】603,549km²。
【人口】(2022推計) 43,637,000。
【人口密度】(2022推計) 72.3人/km²。
【性別人口】(2016.1.1) 男46.29%、女53.71%。
【主要都市人口】(2016.1.1) キーウ(2017推計) 2,925,760、ハルキウ1,449,732、オデーサ1,010,848、ドニエロペトリウツク963,836、ドブロペトラ1,029,063。
【平均世帯規模】(2011) 2.6。
【都市農村人口比(2011.1.1)】

人口動態統計
【出生率】(人口1,000あたり、2020推計) 9.5。
【死亡率】(人口1,000あたり、2020推計) 14.1。
【自然増加率】(人口1,000あたり、2020推計) -4.6。
【出生時平均余命】(2019推計) 男66.9歳、女77.0歳。
【HIV感染率】(15～49歳、2020推計) 1%。

民族(2001)

宗教(2004)

インド

【正式名称】インド共和国。
【政治体制】複院制共和政。二院制(上院[ラージャ・サバ]150議席、下院[ロク・サバ]543議席)。
【大統領】ドロンパディー・ムルム。
【首相】ナレンドラ・モディ。
【言語】ヒンディー語、英語。
【公用語】ヒンディー語、英語。
【通貨】インド・ルピー(以下一(2021年末))。
【独立年月日(国家成立日)】1947年8月15日。
【憲法制定日】1950年11月26日。

2022年4月11日から5月19日まで別に分けて実施された下院選挙は、モディ首相率いるインド国民会議派(BJP)が過半数を大きく上回る303議席を獲得した。 BJPは2019年8月の総選挙以来、8月6日にインドでイスラーム教のジャマ・カシムール州の自治権を廃止する法31日にジャムム・カシムールおよびラダックの分離した。政府のイスラーム教への圧力はさらに増し、2014年未だの近隣諸国からの不法入国者のうち、シーク教などイスラーム教を除く6つの宗教の信者改正国籍法が成立した。法改正はイスラームに差別的視された。

2020年のパンデミック(世界的大流行)で、インドに及ぶ規模で感染が拡大した。12月末時点で感染者約15万人(都市封鎖された。3月から5月までインド全土クワシ(都市封鎖)により、4～6月期の国内総生産は2019年の同期比でマイナス23.9%となり、10月に国が発表した予測では、インドの2020年のGDPはあった。6月、インド北部のラダック地方と中国のチベット自治区との間で中印国境衝突が激化し、両国の間で緊張が高まった。2021年3月5日にインド全土で猛威をふるった。2020年に成立した。農産物の自由化を促進する法律に賛同する大規模なデモが、2021年を過ぎると全国で発生するデモの波が、インドの経済を苦しめた。このデモは130年以上のイギリス植民地時代に建造されたものだった。

2022年、インドの7つの州で州議会選挙が実施され、ナレンドラ・モディ首相率いる BJP が最大の勢力となり、2024年に行われる連邦議会選挙に向けては好成績を挙げた。2月から3月にかけて行われた5州の選挙では、BJP がインドで最大の人口を擁するウタールプラデシュ州をはじめウタールプラデシュ州でも BJP を支持する BJP を支持し、過半数に届かなかったが BJP が過半数を維持した。11～12月に行われた2州の選挙では、首相の出身地であるジャラールプル州で BJP が勝利した。10月30日、ジャラールプル州中部の町モヘンジョ・ダロの長28歳の市長が突然死亡し、140人以上が死亡した。

面積・人口統計
【面積】3,287,499km²。
【人口】(2022推計) 1,357,181,000。
【人口密度】(2022推計) 412.8人/km²。
【性別人口】(2015.1.1) 男51.84%、女48.16%。
【主要都市人口(都市圏人口)】(2011)ムンバイ(ボンベイ)12,442,373(18,394,912)、デリー11,034,555(16,349,831)、コルカタ(カルカッタ)4,496,694(14,057,991)、チェンナイ(マドラス)4,646,732(8,653,521)、バンガロール8,443,675(8,520,435)、ハイデラバード16,731,790(7,677,018)、アムステルダム15,577,940(6,837,693)、ブエノスアイレス(3,057,709)、シカゴ14,467,797(4,501,246)、ジャイプー3,046,163(3,046,163)、カンパール2,765,348(2,920,496)、ラウラー2,817,105(2,902,920)、ナグパール1,795,218(1,886,100)、パドバード1,670,806(1,822,221)、アムステルダム1,585,704(1,760,285)、ニューデリー1,302,363(1,302,363)。
【平均世帯規模】(2011) 4.9。
【都市農村人口比(2018)】

人口動態統計
【出生率】(人口1,000あたり、2018推計) 18.7。
【死亡率】(人口1,000あたり、2018推計) 7.3。
【自然増加率】(人口1,000あたり、2018推計) 11.4%。
【出生時平均余命】(2018推計) 男67.8歳、女70.5歳。
【HIV感染率】(15～49歳、2017推計) 0.2%。

民族(2001)

宗教(2011)

**ブリタニカ国際年鑑 カントリープロフィール
KP00086745**

同時アクセス1 22,000円 (税抜き)
同時アクセス2 44,000円 (税抜き)
同時アクセス3 61,600円 (税抜き)

発行元 **ブリタニカ・ジャパン株式会社**
〒102-0075 東京都千代田区三番町8-1 三番町東急ビル8階
TEL : 03-5436-1388 (代) / FAX : 03-6686-5145
<https://www.britannica.co.jp/>